

音楽Ⅱ・音楽Ⅲ・総合芸術選択生へ①

音楽科 古川

音程①

課題に出てくる音程の問題を解いたと思いますが、これは入試等で基礎問題として必ず出題されます。**音程**を理解した上で音階、和音の勉強をすることが基本と言えます。今回は授業の代わりに**音程**について解説をしたいと思います。

音程とは2音間の高さの隔たりのことです。度数と、その音程の種類を示す言葉によって表します。

1. 度数

同じ高さの2音は1度と数えます。以下、2度、3度、4度・・・8度です。

1度	2度	3度	4度	5度	6度	7度	8度
----	----	----	----	----	----	----	----

1度	2度	3度	4度	5度	6度	7度	8度
----	----	----	----	----	----	----	----

変化記号がついても度数は変わらない。

度数だけを入試問題で問われることはありません。なぜなら度数は同じでも種類が違うからです。音程は幅(距離)を考えることです。

○この時、ピアノの鍵盤を思い浮かべて考えます。

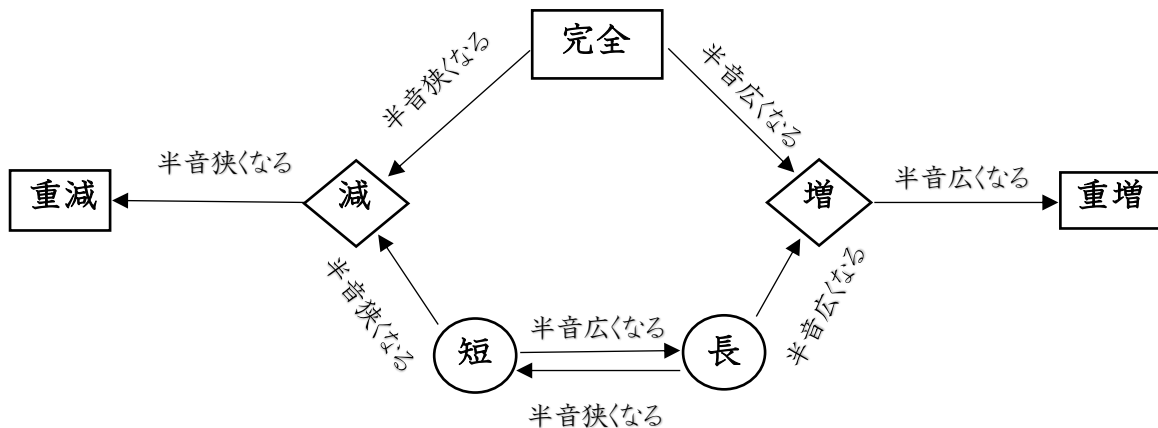
2. 種類

度数が同じでも異なった性質をもった音程ができます。それらを区別するために

各種の言葉を用いますが、度数によって使う言葉が決まっていますので覚えましょ
う。

種類	使用される度数
完全	1・4・5・8
長	2・3・6・7
短	
増	すべての度数
減	1度を除くすべての度数
重増	すべての度数
重減	1度を除くすべての度数

これらの言葉は半音の増減により変化するが、まとめると次のようになる。



完全系: 1・4・5・8度は完全系の度数であり、それより音程が半音広い時に「増」、狭い時に「減」になります。

※1度には「減」は存在しません。なぜでしょうか？

完全1度より小さい音程は存在しないからです。

上の図で示された関係を明確に記憶し、常に思い浮かべなければなりません。

例題) 次の a. は 完全5度 です。それと比較しながら b.c.d.e.f. の音程を答えよ。

解説

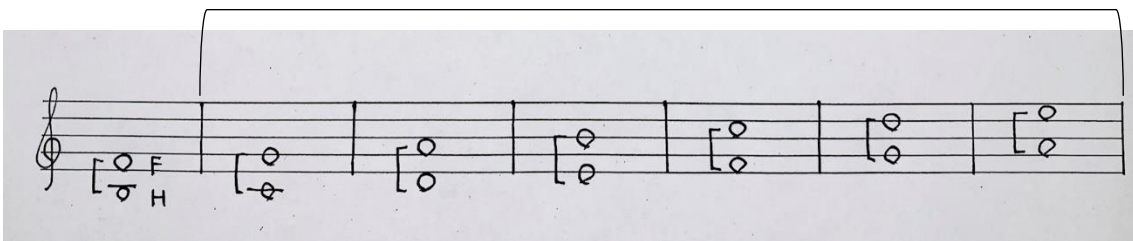
- b) a,が完全5度であるから、それから半音狭くなるので**減5度**となる。
- c) 完全5度から半音広がるので**増5度**となる。
- d) これも完全5度から半音狭くなるので**減5度**となる。
- e) 変化記号が2つあるので1つずつ考えると、完全5度からbで広くなり**増5度**、#でさらに広くなり**重増5度**となる。
- f) 同様に、完全5度から考えますが、この場合、半音狭く、半音狭くしても2音間の距離は変わりません。よって**完全5度**となります。

完全4度と完全5度は数え始めから(例えば a,のド)数え終わり(a,のソ)までの間に半音関係が1つ入っていることが必要です。ミとファは黒鍵が間になく半音関係ですよ？この始点から終点までに半音関係が1つ含まれていないと完全とはならないのです。

Cdur で考えると、完全5度は6つありますが1つだけ**例外**が存在します。

〈5度〉 HF の5度だけが減5度であり、他は全部**完全5度**である。

完全5度



1つだけ減5度になります。

これは始点から終点までに半音関係が2つあるからです。(シとド、ミとファ)

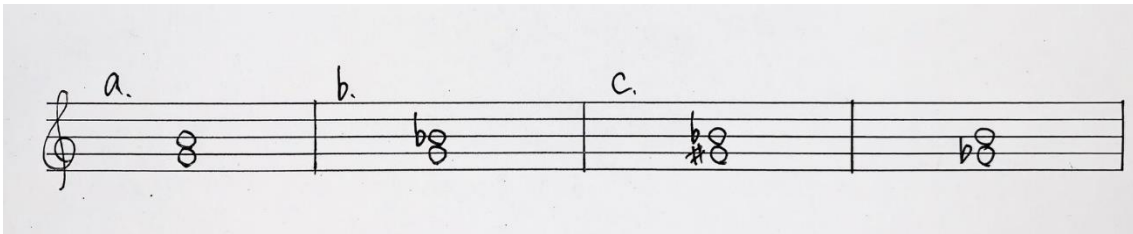
長短系:2・3・6・7・度は長短系の度数であり、「長」または「短」を標準の状態とし

て、「長」よりも音程が半音広い場合に「増」、「短」よりも半音狭い場合に

「減」を用います。

※完全系の度数が「長」または「減」になること、反対に、長短系の度数が「完全」になることは絶対がない。

例題) 次の a. は長3度である。b.c.d. の音程を答えよ。



解説

b) a. が長3度であるから、それから半音狭くなるので**短3度**となる。

c) 変化記号が2つあるので1つずつ考えると、長3度から#で狭くなり短3度、bでさらに狭くなり**減3度**となる。

d) 長3度から半音広がるので**増3度**となる。

2度、3度は半音関係が1つもない場合、長になります。つまり半音関係が1つある場合は短になります。

6度、7度は半音関係が1つある場合、長になります。つまり、半音関係が2つある場合は短になります。

以上を参考に問題を解いてみて下さい。次回は単音程と複音程についてです。